

2017年度 教職課程活動報告

荻野 佳代子

2017年度の教職課程は、再課程認定申請および本学における2018年度授業時間の変更(90分15週から100分14週へ)への対応等が大きなテーマとなりました。さらに2020年度には新学部、2021年度にみなとみらい新キャンパス開設の運びとなり、その準備に向けても始動し、さまざまな変革の渦中にある一年となりました。

再課程認定申請に向けては、総合的な学習や特別支援教育に関する新たな科目の設置、また「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の大きくくり化および教職課程コアカリキュラムを踏まえたカリキュラムに向け検討を重ねました。こうした動きは本学教職課程の教員養成に対する理念や構想を改めて確認し全学的な関心・意識をより高めることにつながっています。

授業運営においては、アクティブ・ラーニングを重視し学生に主体的な学びを促すとともに、外部講師による講演や学外での現場体験の機会を用意することにより、学生が教職に関する最新の知識や具体的な技能を身につけキャリアを展望することを目指しています。

特に2年次からは少人数指導を多く取り入れ、「教職論」や「教科教育法」では多くの実務家教員から教員の職務や各教科の指導法についてより実践的に学べるようになってきました。また2年次終了までには免許教科に即した各種試験の合格が求められており学生たちにとって一つの山場となります。

さらに3年次は翌年度の実習に向けた学修が本格化します。とりわけ3年次後学期および4年次前学期の「教育実習指導Ⅰ・Ⅱ」は約1年をかけて教育実習事前・事後指導を継続的に行うもので、中・高等学校への授業見学による現場体験や「人権教育～いじめ防止の観点から」、「教育と性」、「ICT活用」、「生徒指導」等のテーマでの講演を含んでいます。

続く4年次後学期の「教職実践演習」は、教育実習をふり返り自らの課題を明確にしながらミニゼミ形式で課題の探究を行います。さらに卒業生教員によるパネルディスカッションが行われ、教員としてはもちろん社会人としての心構えを養う意義ある機会となります。先輩後輩の間柄からか、お互いに率直な意見交換が見られることも特徴です。そして最後のミニゼミ報告会が本演習並びに教職課程履修の集大成として、学生たちの成長ぶりがうかがえる場となっています。

【教員採用試験対策】

教員採用試験に向けては3年次のスタートガイダンスに始まり4年次の二次試験対策まで、専門教養・教職教養・論文等の講座や模擬試験、面接、模擬授業等の対策を重ねて実施しています。今年度教員採用者数は48名(うち現役合格17名)を把握しています。さらに臨時的任用職員や非常勤講師として教壇に立つ学生や再挑戦を目指す学生も含めて今後の活躍を期待しています。

【教員免許状更新講習】

8月4・5日には横浜キャンパスにおいて必修講習「教育の最新事情」・選択必修講習「学習指導要領の改訂の動向等」(本学は両方を2日間で受講)を実施しました。ラウンドテーブルにおいては受講される各先生方の教職生活のふり返りを聴き合い、また各講義についてもファシリテーターを交え熱心なディスカッションが繰り広げられ、年代や校種の異なる受講者同士が学び合い刺激し合う様子がうかがえました。

【教育研究交流会および

学校ボランティア報告会】

2018年2月17日には横浜キャンパスにおいて、教職課程と卒業生教員の会である神大教員ネットワークの共催で教育研究交流会を行う予定です。第一部は、本学講師根岸久明氏に「子どもの現状と新学習指導要領の目指すもの～道德化に求められているものとその現実」をテーマに講演をお願いしています。氏は道德教育の指導的立場を長く経験されており、先行実施(来年度小学校、平成31年度中学校)する道德の特別教科化を含む新学習指導要領の方向性について学ぶ機会となります。第二部のラウンドテーブルでは、学生の学校ボランティア活動報告をもとに、教職課程協力校など学校関係者の方々、卒業生教員、学生(来年度採用予定者含む)、本学教員を交えてのディスカッションを行う予定です。本学教職課程に日ごろよりご協力頂いているの方々への感謝の気持ちを込めつつ、参加者が学び、語り合い、交流を深める機会となることを願っております。